佐賀県立図書館だより
くすかぜ
2008 春号 —第513号—
佐賀県「図書館先進県」を目指しています

くすクスくん

民俗と歴史
—その連携について—

さが水ものがたり館長
金子　信二

２００７年の秋に佐賀の歴史を書いた『佐賀読本』という本をだした。私を知る人たちは、民俗の金子がなぜ、歴史の本をと意外に思ったようだ。民俗と歴史は、もともと対立するもので、極端な言い方をすれば、仲が悪くほとんど交流が無かった。

民俗と歴史との大きな違いは扱う資料にある。歴史は文献資料が基本となるが、民俗は古老の記憶の中にあるものを聞き取りをし記録するのである。それゆえに、同じ事柄なのに、記憶相違と話者の思いがはいり、人によって異なるという曖昧さがでてくる。それが文献資料を基本とする歴史学にとっては決定的な不信感となる。

柳田民俗学では、一時、文献史料を重視するなという教えがなされた。文献に依存してしまうと記録されていない民間伝承の収集がおろそかになるという恐れがあったからである。

『佐賀県近世史料』第一編第二巻に、鍋島勝茂は翁介（忠直）が生まれたとき、塩商人を城中に呼びよせ抱かせた。塩商人に抱かせるというのは、民間で行われていた子どもが丈夫に育ち長命になることを願う習俗であった。一方、伝承記録に伊万里市に明治末頃まで「塩替え息子」という習俗があった。生児が育ちにくいとき、丈夫な子を持つ親を拾い親（仮親）とし「お前は弱造だから捨ててやろう」と子どもを捨てる真似をすると、拾い親は「丈夫に育ててやろう」と拾い上げ、その夜、塩三升と子どもと交換をする。いずれも生命の維持に欠かせぬ塩を介して子どもの無事な生育を願うのである。

この例のように歴史史料と伝承資料を結びつけることによって庶民の日常生活が解明される可能性を強めることができる。『野田家日記』や『前川家日記抄』『乙宮社日記』といった庶民生活を記録したものや、『佐賀県近世史料』『多久領御屋形日記』など役所の記録のなかに祭礼や雨乞いなど当時の民俗行事をうかがうことができる。

民俗も時代とともに変わりつつあるが、歴史史料なども積極的にとりいれ枠にとらわれない民俗学をやっていきたい。

目次 CONTENTS

●巻頭言　金子　信二 …… 1P
●図書館からのお知らせ …… 2P
●図書館の上手な活用法（第４回） …… 3P
●こどもの読書週間のお知らせ …… 4P
●こどもの読書週間行事一覧 …… 5P
●第３回郷土研究講座　幕末の長崎警備と佐賀藩 …… 6P
●古文書の紹介（７）大地主の沽券状 …… 7P
●レファレンス事例から　●行事予定 …… 8P
●開館日カレンダー　●本で見る佐賀

佐賀県立図書館のご案内
所 在 地／〒840-0041
佐賀市城内2-1-41（県庁東）
T E L／0952-24-2900
F A X／0952-25-7049
Eメール／saga-kentosyo@manabisaga.jp
ホームページ／http://www.pref.saga.lg.jp/kentosyo/
開館時間／9:00～20:00
［児童閲覧室は10:00～17:00］
休 館 日／毎月の最後の水曜日